

新発田歩兵第百十六聯隊奮戦記

【第9回】宜西突破作戦

新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

昭和十六年三月、宜昌作戦以後宜西区正面の敵、第二十六軍・第四十一師及び第三十二師は、歩兵第五十八聯隊（高田）と至近の距離に対峙し、縦深大なる要塞化した陣地に抛り、しばしば蠢動を試した。師団は此の敵を急襲撃破、占領地域の拡大を企図し着々と準備を進めていた。

我が聯隊よりは第三大隊（十一中隊欠）を基幹とする阿久刀川部隊及び第一大隊（一中隊欠）を基幹とする村田部隊が之に参加を命ぜられた。

「第一大隊正面の戦闘」

宜東警備として高家店附近に位置し、臨江舗～紅溪溝間の広地域を、対岸の敵に対し警戒すると共に治安の回復に当たっていた第一大隊は、今次作戦開始にあたり、紫金嶺の聯隊直轄であった第二中隊を復帰させ此の作戦に参加することとなった。

三月二日、大隊長は宜昌に先行、宜西の警備隊長北村大佐より、歩兵第百十六聯隊第一大隊（一中隊欠）は北村大佐の区署下に入り出撃、左第一線となり岩風堂・下汪家蓬の間に兵力を集結すべきを命ぜられ、主力は前夜夜行軍を以って三日〇六三〇宜昌到着、〇九五〇畠山臨時迫撃砲小隊（二門）の追及と共に集結完了した。

二二三〇揚子江渡河企図の秘匿に万全を期すると共に、至敵なる警戒の下喻家沖に露營、次の命令を受領した。

「村田大隊は出撃左第一線となり墓地高地および松林高地を強行奪取、更に針山及び汪家を占領確保し、西方に突進する主力の左側背を掩護すべし」

此の命令に基づき、四日、五日は同地に於いて戦闘準備に遺憾なきを期し、六日〇五〇〇第三中隊を右第一線、第四中隊を左第一線として岩風堂東側高地に展開。〇七三八砲兵の射撃開始と共に一齐に攻撃前進、第四中隊は敵火を冒して先ず墓地高地に突進、敵地雷地帯を突破し、砲兵の突撃支援射撃と共に白刃を振るって敵陣に突入、更に松林高地に向い攻撃を続行した。

第四中隊墓地高地を奪取するや、其れまで右後方を前進していた第三中隊は、大隊命令により直ちに同高地東北稜線に進出、松林高地始め、左前方よりの熾烈なる側射を冒して梅山に勇進、手榴弾戦を演じつつ之を奪取、引続きナマコ山に進撃、雨と降る敵弾を潜り我が重火器の掩護射撃の下に〇九二〇一挙に東部ナマコ山を占領。

敵十字火の只中を更に西部ナマコ山に向い猛進、発煙を利用し敵陣に緊迫、決死白兵を振るって突撃を断行〇九四五遂に該高地一帯を占領した。

一方障害物を廻らし、掩蓋を築き半永久的陣地の松林高地に拠る頑敵に対し攻撃中の第四中隊は、正面及び左前方よりする敵の猛射を意とせず、敵陣に緊迫接戦格闘の後該高地を奪取した。

大隊は予備隊たる第二中隊を第一線に進め、針山を奪取するに決し、ナマコ山に展開、軽機関銃等各種重火器の援護射撃の下に勇躍前進した。

敵は天嶮と築城とを頼んで頑強に抵抗すれど、第二中隊は巧みに敵火に遮蔽し、険峻を攀じり遂に其の一角に突入、爾後敵の包圍的火力を克服して攻撃を続行したが戦況意の如く進捗せず、薄暮一部を以って鉢巻山を奪取、更に夜に入るや奮戦激闘夜襲を以って南部針山を占領した。

終夜に亘り敵の逆襲激烈を極めれど、勇戦奮闘悉く之を潰走させた。

爾後大隊は鉢巻山・針山・ナマコ山・松林高地・墓地高地を占領確保しつつ、累次の敵逆襲を排除し或いは前面敵陣地射撃、或いは配備の変更等積極的活動に依り歩兵第五十八聯隊の左側背を掩護した。

十二日反転命令を受領、十三日配属を解かれ一九三〇薄暮を利用、陣地を撤収し途中敵の妨害を受けることなく二一三〇上五龍口到着、十四日一三二〇宜昌出發一九〇〇高家店到着、原態勢に復帰し前警備任務を続行した。

「第三大隊正面の戦闘」

一方董市に在り、該地附近の治安確立に任じていた第三大隊（第十一中隊欠・聯隊機関銃三分の一・歩兵砲中隊二分の一）大隊長は宜昌に先行、部隊は二月二十八日以来夜行軍を続け、三日〇六〇〇宜昌到着、大休止の後一九〇〇揚子江渡河、企図を秘匿しつつ上五龍口に露營。

四日、師団予備隊となり五日同じく予備隊たる歩兵第百四聯隊第二大隊を指揮下に入れ同地に待機。

六日、第一線諸隊の進出に伴って、歩兵第六十五聯隊の後方を続行、一〇四〇赤禿山東南側谷地に集結、細雨霏々として煙る中を更に二八七高地（一ノ字高地）に進出、第十中隊を師団司令部の直接警戒として派遣し、自余は現態勢を以って夜を徹し、同日一一〇〇歩兵第四百聯隊第二大隊は指揮下を離れた。

七日、師団命令に基づき大隊は、歩兵第五十八聯隊左翼に進出、天王寺方向に進出すべく先ず造甲坪に向い前進、敵は尚捲橋左岸一帯の堅固なる陣地に拠り、一部は右岸にも進出して我が前進を阻止した。

大隊は此の敵を攻撃して捲橋河左岸に進出すべく第十二中隊をして右岸を占領、大隊の進出を掩護させ、第十一中隊を右第一線、第九中隊を左第一線として〇九一五勇躍渡河開始、山砲及び重火器の密接なる協力の下に一氣に之を渡河。第九中隊は敗敵に追尾し巧みに死角を利用し、敵火の間断を縫い一二〇〇造甲坪北側高地台端を占領した。

敵は台上の地形を巧みに利用した陣地に拠り、続々と兵力を増加し三方より猛火を浴びせ頑強に抵抗を試した。

大隊は火器の全火力を発揚し、折から飛来した友軍機と空陸相呼応し、密接なる協力の下に大隊長以下一丸となり敵陣に突入。一四一五遂に台上一帯を占領した。一六〇〇大隊は速やかに天王寺附近に進出し、敵の退路を遮断。爾後同地附近に兵力を集結すべき師団命令を受領、敵の反撃を駆逐し一六五〇更に前進せんとするや、次の師団命令を受けた。

「阿久刀川大隊（新たに山砲第一大隊第一中隊・歩兵一個中隊を属す）は天王寺附近にて増加兵力を掌握したる後速やかに西進、柏水坪を経て曹家畷に突進し、敵の退路を遮断し之を捕捉撃滅すべし」

依って大隊は、薄暮攻撃により当面の敵を撃破し天王寺に突進するに決し、第十中隊を右、第十二中隊を左第一線とし二〇三〇準備完了。残敵の抵抗を排除しつつ二一四〇第十中隊は果敢なる奇襲を以って沙石湾西方台地の一角を奪取。続いて第十二中隊、敵の逆襲部隊と手榴弾戦を演じつつ該台地に突入、之を占領、至敵なる警戒の下に夜を徹した。

八日〇八〇〇、新配属部隊を掌握。敵は暫時反撃を試みるも我が猛撃により、徹底的打撃を受け天王寺方向に退却した。

大隊は〇八〇〇敗敵に追尾して天王寺に急進、〇九〇五該地に到着。一三〇〇柏水坪に向い出発、六的冲附近に至や東側稜線の敵より射撃を受け、依って直ちに之を奪取。続いて石山及び馬背山の敵に対し第九中隊を右、第十二中隊を左に展開して攻撃、險峻を挙げ敵の背射・側射を潜って敵陣に緊迫、我が砲兵・重火器の掩護の下に一七〇〇之を奪取、重点を左に指向して前面の敵を猛攻。

敵は石山北側高地、円山・松山の天嶮に抛り我に猛射を浴びせ前進意の如くならず、止む無く一時馬背山北側高地及び西方高地を占領、爾後の前進を準備した。

九日朝来、敵は重火器の猛烈なる集中射と共に逆襲し来るも、手榴弾戦の後之を潰走させた。大隊は柏水坪に対し成るべく遠く北方より攻撃すべき命を受け前進せんとするも、敵火尚熾烈にして戦闘進捗せず、一四三〇態勢を立て直し、敵の十字火を冒して勇躍前進、第十二中隊は白刃を振るって松山高地に突入、接戦数合の後一六〇〇遂に之を奪取、第九中隊又円山高地を占領した。

敵は師団の右側背を擾乱する企図の如く、遂次包囲的態勢を以って我が側背に迂回反転して来た。大隊は此の企図を破碎すべく現在線を確認しつつ夜を徹した。

十日、依然敵の抵抗を排除しつつ前進を続行せんとしたが、一八〇〇部隊は現在地を確認し進攻の陽動を実施しつつ師団右側を掩護すべき命令を受けた。続いて二三三〇、明十一日反転開始の命を受け、再び現在線を占領し夜を徹した。

十一日、部隊は進攻の陽動を実施しつつ、〇九三〇陣地を徹し反転、一二〇〇大平橋北方台地に到着、直ちに陣地を占領し師団の収容隊及び陣地占領掩護隊の収容に任じた。

十二日、払暁まで数回に亘り敵の逆襲を受けるも、悉く之を撃退。〇九三〇師団命令に基づき同地を撤収、一三〇〇郎厩到着、一七四〇渡河完了、一八〇〇宜昌に集結した。

十三日、〇九〇〇宜昌出発、土門壩安福市を経て十五日〇九二〇紫金嶺に到着。軍旗奉拝、聯隊長の訓示を受け、一八一〇董市帰着、原態勢に復帰し董市地区の警備に任じた。

(参考文献「聯隊歴史 歩兵第百十六聯隊」より)